

【専門科目領域/専門科目群/看護の基本】

科目名		ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護援助方法論Ⅴ		NSP23_003	必須	1	2	前期
担当教員		研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
坂本 文子 他		418	fumiko.sakamoto		月曜日～金曜日 12：10～13：00	
授業の目的・概要		看護援助方法論Ⅴでは、看護の思考過程の基本となる看護過程を学ぶ。 看護過程の一連のプロセス（アセスメント、看護問題の明確化、看護計画、実施、評価）を理解し、事例を用いた演習を行うことで、看護過程展開における問題解決思考を習得する。				
授業形式・方法		☒対面授業 ☐遠隔授業(双方向型) ☐遠隔授業(自主学習) ☒講義 ☐実習 ☐実技 ☐PBL ☒グループワーク ☐その他 () ☐反転授業 ☐プレゼンテーション ☐実習・フィールドワーク				
学習上の助言		看護過程展開に必要な疾患・治療・看護援助に関する既習の知識を復習しながら授業に臨むこと。 グループワークにおいて、他者の価値観を理解するとともに自己の考えを積極的に発言すること。				
教科書		系統看護学講座専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅰ基礎看護学Ⅱ/著：有田清子ほか/医学書院/2023 看護の基本となるもの/著：V・ヘンダーソン訳：湯植ます、小玉香津子/日本看護協会出版会/2016				
参考書		看護がみえるvol.4 看護過程の展開/メディックメディア/2020 ナーシンググラフィカ 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ/メディカ出版/2022				
外部教材		必要時紹介する。				
学生が達成すべき行動目標					関連卒業認定・学位授与方針	
①	看護過程の目的と意義を説明できる。				NS(1)(2)(3)	
②	看護過程を構成する要素とそのプロセスを説明できる。				NS(1)(2)(3)	
③	事例を用いて、ヘンダーソンの基本的看護の枠組みに沿って情報収集、分析・解釈し、看護問題を明確する方法を説明できる。				NS(1)(2)(3)	
④	看護問題に対す看護目標の設定と看護計画の立案について説明できる。				NS(1)(2)(3)	
⑤	実施・評価について説明できる。				NS(1)(2)(3)	
授 業 計 画						
回	学習内容等		授業方法		学習課題・学習時間（時間）	
1	看護過程とは（目的、意義、構成要素）		講義		予習：指定の課題に取り組む。 復習：学びをまとめる。	1
2	事例、アセスメントの枠組み		講義		予習：指定の課題に取り組む。 復習：学びをまとめる。	1
3	アセスメント（情報の整理、分析・解釈）		講義		予習：指定の課題に取り組む。 復習：学びをまとめる。	1
4	アセスメント（情報の整理、分析・解釈）		グループワーク		予習：指定の課題に取り組む。 復習：学びをまとめる。	1
5	アセスメント（分析・解釈、統合、関連図）		グループワーク		予習：指定の課題に取り組む。 復習：学びをまとめる。	1
6	看護問題の明確化、看護目標、計画立案		講義・演習		予習：指定の課題に取り組む。 復習：学びをまとめる。	1
7	看護問題の明確化、看護目標、計画立案		講義 グループワーク		予習：指定の課題に取り組む。 復習：学びをまとめる。	1
8	看護問題の明確化、看護目標、計画立案		講義・演習		予習：指定の課題に取り組む。 復習：学びをまとめる。	1
9	実施・結果・評価		講義・演習		予習：指定の課題に取り組む。 復習：学びをまとめる。	1
10	事例を用いた看護過程の展開 ・立案した看護計画に沿って、ロールプレイを行い、実施・結果・評価まで体験する。		グループワーク		予習：指定の課題に取り組む。	1
11	看護計画を考え、理解する		グループワーク		予習：指定の課題に取り組む。	1
12	計画に沿った看護実践を行う		グループワーク 演習		予習：指定の課題に取り組む。	1
13	看護計画の評価、修正を考え理解する		グループワーク 演習		予習：指定の課題に取り組む。	1

【専門科目領域/専門科目群/看護の基本】

14	看護記録の種類を学ぶ	グループワーク 演習	予習：指定の課題に取り組む。 ロールプレイによる学びをまとめる。	1			
15	まとめ	講義・演習	予習：疑問や不明点を明らかにする。 復習：学びをまとめる。	1			
試	筆記試験 達成度評価・評価ポイントを参照						
達成度評価							
総合評価割合（％）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		50	30	0	0	20	100
総合力指標	知識・技術力	30	10	0	0	0	40
	思考・推論・創造する力	20	10	0	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	10	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	0	10
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	定期試験期間中に筆記試験を実施して、授業中に講義した内容の理解度を評価する。筆記試験の得点が 60％に満たない学生は再度筆記試験を行う。				採点終了後、試験問題解答用紙を返却する。出題意図、解答についての解説を Teams で提示する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
レポート	①	✓	授業時に複数回レポート課題を提示する。評価割合は 30％とする。				内容を点検し、コメントを記して返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
その他	①	✓	授業やグループワーク、レポート課題への取り組みを評価する				授業時にコメントする。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
備 考							
他 担 当 教 員		梶原睦子、窪川理英、小石川好美					
教 員 の 実 務 経 験		科目担当教員は 15 年の臨床経験、教員として 20 年以上の教育経験を有する。					
実 践 的 授 業 の 内 容		看護専門職の実体験に触れたり、映像資料や文献を用いたりすることで、対象や看護のあり様など、看護場面をイメージできるように工夫する。 担当教員のこれまでの実務経験、教育・研究活動をもとに、事例を交えて授業を進める。					
そ の 他		学習状況によりスケジュールを変更することがある。 今後の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更を行う可能性がある。					